

平成 27 年度 第 3 回東区まちづくり懇話会議事録(要旨)

1 開催日時

平成 27 年 10 月 7 日（水） 午前 9 時 30 分～午前 11 時 30 分

2 会場

熊本市東区役所 1 階 101・102 会議室

3 出席委員（順不同）

澤田委員、松瀬委員、西原委員、松永委員、古嶋委員、水谷委員、
穂園委員、山田委員、伊志嶺委員、吉田委員、竹本委員、松尾委員、
宮崎委員、餅崎委員、佐土原委員

15 名出席

4 議事

（1）東区まちづくり推進事業の来年度の取組みについて 東区まちづくり懇話会協議項目

- ①まちづくり懇話会からの提案に対する取組み
- ②東区中学生による未来会議からの提案に対する取組み
- ③区提案の取組み

（2）来年度以降の取組みについての委員提案について

5 閉 会

議 事

(1) 東区まちづくり推進事業の来年度の取組みについて

○会長

議事に入る。第2回懇話会における委員の意見に基づき、来年度の取組みについて事務局より提案が上がっているため、その方向性について協議を行う。提案事項について事務局より説明をお願いする。

■事務局

1 まちづくり懇話会からの提案に対する取組み
(資料1) 1-(1)～(6)について説明

○会長

事務局から説明のあった「まちづくり懇話会からの提案に対する取組み」について意見、質問はないか。

○委員

平成27年度事業の中に、まちづくりビジョン基本方針4-(2)まちの美化活動の推進、5-(2)生活環境の整備促進に関する事業がない。ごみステーションの維持管理の問題など重要だと思う。今年度はしかたがないが、平成28年度事業に提案がないのはなぜか。

■事務局 ※資料3(まちづくり推進事業体系図)に基づき説明

すべての重点テーマを網羅していないとの質問についてであるが、この体系図はまちづくり推進経費について掲載したものであり、東区まちづくりビジョンの推進にあたっては、まちづくり推進経費以外で対応しているものもある。例えば、本庁で実施している事業などもあり、ここには表示されていない。また、取り組めるところからということで、平成25年度より順次取り組んでおり、予算の枠、人的な都合等があるなかで次のステップへ進めているところである。重点的テーマに対する事業がない部分については、随時検討を進めたい。当然、委員の皆様からの提案があれば、取り組む方向で検討したい。

○委員

地域の美化に関するごみステーションの維持管理など重要課題であり、本庁任せではなく、地域に身近である区主体で取り組むべきではないのか。

■事務局

先ほど、本庁対応の部分もあると説明したが、区の一般的な事業として対応している部分もある。その一部としてまちづくり推進課で対応している事業がある。

■事務局

委員の質問についてであるが、全体的には、2,000万円という限られたまちづくり推進経費と通常業務があり、合わせたものをビジョン体系図の中に組み込んでいる。町の美化活動については、まちづくり推進課で通常業務として扱っており、本庁からの予算の中で各校区・町内に支援を行っている。対応しきれない事案が出てきた場合などは、まちづくり推進事業として特化して進めることもありうる。

○委員

ごみステーションの関係であるが、東区ができて地域における問題は何かを検討した際に「人材育成」と「ごみ問題」であったと聞いている。その中でモデル地区を選定し解決に向けて実施したと記憶している。私の校区は、ごみステーションのモデル地区として1年間取り組んできたこともあり、ごみステーションの問題については区として取り組んでいると認識している。

各自治会の公園に花壇があり、年2回花の苗の配布があるが、もう少し充実できないだろうか。環境整備の一環としてお願いしたい。

○会長

環境整備についての意見があったが、重要な問題であると思う。ごみステーションのモデル地区の話は、地域課題検討会で取り組んでいる部分と思う。そこでこの検討結果や今後の展開等については、議事③「区提案の取組み」の際に説明をお願いします。

○会長

他に意見・質問はないか。

○委員

誰もがいきいきと暮らせる支援体制づくりについてであるが、認知症徘徊訓練が年1校区では間に合わないとの話があったと思うが、包括支援センターにおいても人員に限りがある中での対応は難しいと思われる。地域には居宅介護支援事業所がありケアマネージャーが在籍しており、認知症訓練についてのレクチャーができると思う。東区にも多くの居宅介護支援事業所があるので、例えば、月

1 回住民に対する説明を依頼するなどしてもいいのではないかと。住民側も施設側もお互いにメリットがあると思う。そういった活用も必要ではないだろうか。

■事務局

ただ今の意見を参考とし、居宅介護支援事業へも呼びかけていきたい。

○会長

他に意見・質問はないか。

○委員

18 校区全体の防災訓練実施の提案についてであるが、地域によって防災意識に温度差があり、参加者も少なく偏りが出るのではないかと。桜木校区では、2～3 年に 1 回防災訓練を行っているが参加が少なく苦慮している。今年も 11 月に自治会の防災訓練を予定しているが、防災訓練は、大きな目玉がないと参加してもらえない。消防署と打ち合わせするなかで、例えば起震車を活用すれば子ども達が参加し、それに伴って親達が参加するとのことであった。防災訓練は参加者が体験できる規模でしたほうがよいのではないだろうか。

■事務局

対応方針のなかでも説明したが、18 校区全体での訓練については、例えば自主防災クラブがない地域などは、校区での開催にも苦慮されていると聞いている。18 校区全体での訓練は、来年度にもすぐにとすることは難しいと認識している。18 校区全体で開催できるよう、まずは各校区、各自治会の防災意識の向上を図りたい。各校区へ呼びかけを行い、勉強会等から始めることを考えている。

○会長

起震車を活用するなど、防災訓練開催のノウハウがあると思うので、そういったことも勉強会等を通じて広めていくと、今まで開催出来なかったところも開催出来るようになるのではないかと。思う。

○委員

18 校区全体で防災訓練が開催できれば防災意識も高まり、校区間の交流にもつながると思う。意見にあったように 18 校区全体での開催に無理があるのなら、出張所単位での開催は出来ないだろうか。1～2 年に 1 回程度の開催であれば、自主防災クラブの設置を進めながら可能ではないだろうか。隣の校区がどのような訓練をしているのか学べるし、一緒に協力できる部分もあると思う。防災とい

うものは協力なくしては成り立たないので、出張所単位での開催についても検討いただきたい。

○委員

健軍校区では毎年防災訓練を行っている。7つの町内があり、第7町内は自衛隊通りにあり、避難場所は東町小学校になっている。健軍校区で防災訓練を開催する時は、集合場所が健軍小学校あるいは湖東中学校になるため、本来の避難場所である東町小学校へは行けない。先ほどの意見にもあったように数校区合同の訓練が開催可能であれば、本来の避難場所へも行けるし、そうあるべきと思う。

西区や中央区の方と話す機会があり、西区では防災訓練をするたびにアルミシートやアルファ米等を参加者に配っているとのこと、中央区ではそういったものはないとのことであった。東区ではアルファ米を区から提供してもらい、炊き出しを行っているが、参加者へ配る啓発品のようなものはあるのか。

■事務局

分散備蓄や集中備蓄ということで、様々なところに非常食等を備蓄しており、定期的に入れ替えを行っている。入れ替え時期のタイミングもあるが、それらのものを訓練の際に使用したり、場合によっては配布も可能である。先々月、東区であった市民を対象とした防災関連の会議の場においても参加者に乾パンを配ったところである。防災訓練を開催される際に相談いただければ、可能な限り対応させていただく。

○委員

11月8日開催の健軍校区防災訓練は対応可能か。

■事務局

検討させていただきたい。相談は総務企画課までお願いしたい。

○委員

非常食を食べるといふ経験も大切なことだと思う。私の経験で言えば、自治体は非常食を備蓄しており、入れ替え時期に自分達が合わせて防災訓練を開催すればいいと思う。行政としても対応しやすいのではないだろうか。また、災害は地域によって違うだろうし、様々な事が起こり得ると思う。様々なケースを想定し訓練は何回やってもいいと思う。

○委員

健軍東校区は6町内あり、各町内で防災訓練を行っているが校区全体ではまだ行っていない。今月、私の町内で開催を予定しており「株式会社えがお」が参加することになっている。火災訓練は何年に1回というかたちで継続しているが、他の防災訓練に関しては行っていなかった。初めての地震訓練ということで区役所にもお願いして開催することにしている。ご存知かどうかかわからないが、東警察署のなかには非常用のトイレがあり、水もある。ガソリンもあるが、これは自分たちのパトロール用の備蓄だと思う。東警察署に設置されているので頭の片隅に入れておいてほしい。

ひとつお願いがある。あちこちに老人会があると思うが、加入率はどうなっているのだろうか。老人会には加入したくないという話を最近よく聞く。どういうことかという老人会は日時・場所が決まっているが、そういうものを求めているわけではないとのこと。その時に行って、ただ話ができる「井戸端会議」をする場がほしいという意見が多い。住民が興味を持って取り組めるような場所が必要であると思う。今は少子化で生徒も減っているので小学校、中学校の教室も空いているのではないかと。可能であれば、この空き教室を活用できないものだろうか。高齢者なので、2階、3階の教室は無理だと思うが、1階の片隅でもいい。そこに行けば、誰かがいてそこで話が出来ると。高齢者の中には、様々な専門的な知識や技術を持った方がおられる。そういった方々が集まってくるので知恵を借りて活用していく。仲間意識を持ちつながりができる。そういう場が必要だと思う。学校が無理ならコミセンでもいいが、小さいことだが電気代、水道代がかかるため補助金等で対応していただければもっと広がると思う。とにかく老人会には入りたくない、でも人と話したいという方が多いので、こういう部分も検討していただきたい。

○会長

地域の高齢者の拠点となる「場」が必要との意見であるが、空き教室の活用のみならず、育児や子育ての協力といった部分にも発展していく可能性もあると思う。今後、検討したい。

○会長

次に議事(1)-②東区中学生による未来会議からの提案に対する取組みについて協議を行う。提案事項について事務局より説明をお願いする。

■事務局

東区中学生による未来会議からの提案に対する取組みについて説明
(資料 1-2-(1)、資料 2)

○会長

事務局から説明のあった「東区中学生による未来会議からの提案に対する取組み」について何か意見、質問はないか。

○委員

この事業は何年スパンで考えているのか。取組みを始めても中学生は卒業していくので、何か継続していく方策はあるのか。例えば、中学校単位で取り組むなら 1 年生から 3 年生までいるので、段階を経て次につなげていけるのではないだろうか。阿蘇では草原環境学習を小学校の授業に取り入れており、そういったものになれば、さらに深まっていくと思う。

■事務局

取組み方については、例えば子ども会などの小さい単位でも構わないと考えている。また、PTA や老人会等と一緒にやってもいいと思う。地域について詳しい方が、子ども達や若い世代の人達に伝えていく場であってもいいのではないだろうか。そういう意味において、小さな単位で始めてもいいのではないかと考えている。それぞれの地域から出てきたものを 3 出張所管内毎に七不思議としてまとめたい。あまり出てこないようであれば、東区全体としてまとめてもいいと思う。当然、出された意見については、区で整理してお知らせしたい。まずは、次年度に取り組んでいただけたところにモデル的に取り組んでいただき、区全体へ広げたらと現段階では考えている。

○委員

課題について、「東区の魅力を外に PR するにあたっては、自分たちの住むまちを再認識する必要がある」とのことであるが、例えば、四時軒・横井小楠などあまり知られていない。小中学校の授業でも 1 度は見学できるようにしたほうがいいと思う。また、案内表示についてもわかりやすい表示が必要である。

○委員

歴史や人物について小中学生、高校生も含めて全く無関心な状況の中で、横井小楠等いかに結びつけるかといった前段の部分が重要だと思う。先日、開催された中学生の未来会議など、自分の区に関与することにより興味を持つようにな

る。また、その過程が大切であると思う。完成後には広報誌や web 等での情報発信とのことであるが、提案した中学生達が卒業した後も継承していくために、どの世代をターゲットにした内容にするのか、いかに参加したいと思わせる内容にするかといった仕組み作りが重要である。自分達も参加したいと思わせる仕組みを作り、賛同者が増えていくようにしなければ継続は難しいと思う。企画段階である程度明確な方向性を決めておいたほうがよいのではないかと。

○会長

只今の意見にあったとおり、中学生が興味を持つような七不思議、大人が考える七不思議は違うかもしれない。

○委員

今の中学生は完全に web 情報に支配されている中で、いかに興味を持つ内容にするかだと思う。

○会長

七不思議について中学生に取材をさせてみるのも面白いと思う。

○委員

この七不思議を作成するのであれば、具体的なスケジュールを整えなければ、うやむやになる気がする。今後、地域の自治会等に話をされると思うが、期限を設けてなければ話を受けた側も進んでいかないのではないかと。ある程度計画的に進めるべきである。

○会長

只今の意見にあるようにロードマップ（行程表）を作成し、進行管理が必要である。検討していただきたい。

○会長

次に議事（1）-③区提案の取組みについて協議を行う。提案事項について事務局より説明をお願いします。

■事務局

3区提案の取組み

（資料 1）3-（1）～（11）について説明

○会長

事務局から説明のあった「区提案の取組み」について意見、質問をいただく前に（３）地域課題検討会改善策実施経費のごみステーションの話について確認したい。先ほど委員の意見にもあったが、モデル事業のハード整備の予算はどこからでているのか。

■事務局

まちづくり推進経費から出している。

○会長

それでは事務局から説明のあった「区提案の取組み」について意見、質問をいただきたい。

○委員

（11）東区農業者ネットワークづくり推進経費についてであるが、TPP 法案可決もあり、試行錯誤しながら後継者もやっていくことになると思う。広く浅くといった支援も良いが、子育て世代の後継者たちにとってやりがいのある支援をお願いしたい。臨機応変な支援があれば農業も活性化すると思う。

■事務局

まちづくり事業で対応できる限界はあると思うが、一番必要なのは後継者や新しく農業に携る方が現状を認識することだと思う。例えば、いつ頃から TPP の影響が出るのかといったこと等をしっかり理解しながら戦略を持って農業に取り組んでいただきたい。そのためにも情報をどんどん提供していきたいと考えている。

○委員

東区健康まちづくりサポーターについてであるが、どのような方がサポーターになっているのか教えていただきたい。

■事務局

東区健康まちづくりサポーターは一般のボランティアの方々である。現在は食と健康フェアや校区の夏祭り等での健康イベントを区と協働でやっている。主体的な健康づくりの運動が出来れば良いということで、卒業生に対するフォロー教室も開催しており、その中で勉強しながら校区の中で取り組めるように進めている。

○委員

サポーターを招いて講義をしてもらうことは可能なのか。

■事務局

現在、東区では食生活改善推進員、歯と口腔の8020推進員、健康まちづくりサポーター、介護予防サポーターといった4つのサポーターを養成している。サポーターの中には重複してなっている方もいる。食生活については歴史もあり、食生活改善推進員が様々な講習を行っており、相談があれば紹介することは可能である。

○会長

他に意見、質問はないか。

○委員

子ども遊びプランナーについてであるが、公民館事業との連携と考えていいのか。

■事務局

この事業については、子ども版、大人版を想定している。子ども版については、今年度事業として秋津公民館で実施している。大人版については未実施であるが、年内に実施できるよう調整を進めている。また、子ども版については11月に開催する区民まつりの中でもブースを設けており、秋津公民館で受講した方々の企画を予定している。

○委員

東区未来会議についてであるが、懇話会との違いはあるのか。また、どういった世代を対象に考えているのか教えていただきたい。

■事務局

この事業と懇話会との違いについてであるが、懇話会は各団体の代表者によるものであり、未来会議は一般の方々を対象にしたものである。また、この事業については、今年度は中学生を対象に開催したが、次年度は新規事業として「子育て世代」等の特定の方々を対象として開催を考えている。対象の選定にあたっては今後の状況をみながら決定したい。特定の対象としては商業関係、農業関係、高齢者等あると思うが、昨年の懇話会において若い力の活用という意見をいただ

いているので、当面は「若い世代」というくくりで進めたい。本来は区政モニター事業として地域の意見を聞く場としてスタートした事業であるが、今年度のモニター応募が思わしくなかったため、形を変えて区民の意見を聞く場として新規に設定したものである。そういった経緯もあり、今後も継続していきたいと考えている。

○委員

未来会議における提案等については、懇話会に報告があると考えてもよいのか。

■事務局

未来会議で協議した内容については、懇話会へ報告させていただく。

○会長

区政モニター制度についてであるが、今年度の応募状況と応募がない原因について教えていただきたい。

■事務局

若い力の活用ということで、今年度は16歳から50歳未満の方を対象として募集を行ったが高校生1名のみの応募であったため、当初1ヶ月としていた応募期間を随時募集へ変更し、大学へも募集チラシを設置した。また、東区内の企業にも直接声掛けを行ったところであるが、結果的には応募がなかった。原因としては、仕事の都合で時間が取れない、休日に参加可能な若手がないといった話を聞いている。こういった現状を踏まえ、新たな事業として東区未来会議を計画させていただいた。

○委員

先ほど、健康まちづくりサポーターの話があったが、サポーターの方へいきいきサロンに来て話をしてもらいたいとお願いしても、忙しい方が多く、予定が合わずになかなか来てもらえない。せっかく1年間勉強して卒業しても、学んだことを活かす場所があるのだろうかと思う。福祉課のほうで認知症に関する研修会等をしたいとの話もあったので、研修会等を開催する際には、介護サポーター、健康まちづくりサポーターを卒業した方達にも参加いただき、継続して関わる意識が持てるような方策をとったらどうかと思う。

○会長

ありがとうございました。

○会長

議事（２）来年度以降の取組みについて協議を行う。まちづくり推進事業のこれからの方向性等について意見、提案はないか。

○委員

地域経済の活性化についてであるが、今年は江津湖で花火大会が開催され、今後も継続されるものと思うので、地域が活性化する取組みも必要だと思う。花火大会で人が集るのに江津湖の広場には日陰もなく、雑談する場所もないと聞いている。花火大会につなげるためにも、広場を使えるように整備したり、花火に備えてネットワークを作り、組織的に準備を進めていくなどしなければ、せっかく東区で花火大会が開催されても、何にもつながらないと思う。本庁で対応する部分といわれるかもしれないが、東区でも出来る事業に取り組むべきではないだろうか。

○会長

花火大会を活用すべきという意見であるが、本庁が対応しているのか。

■事務局

本庁が対応している。今年度は、健軍商店街が近いこともあり、アーケードを使って商店街がイベントをされた。その際の会議への出席や大会翌日の清掃活動というかたちで東区として参加させていただいた。委員の意見の通り、東区で開催されているので、区で出来ることがあれば取り組んでいきたいと考えている。

○会長

非常に重要なチャンスであると思うので、活かす方策について今後、区役所と健軍校区の様々な団体等と検討していただければと思う。

○会長

まちづくり推進経費についてであるが、これまでに様々な提案を頂き、事業を組み立てているところである。ただ、予算にも限りがあり、事業が増えてくると新しい提案が出されたときにどう取り入れていくかという課題が必ず出てくると思う。委員の意見にもあった「何年計画」であるのかといったことが重要な課題になってくる。新しい事業を始めるには、どれかを止めなければならない。事業数も増えてきているのでスクラップアンドビルドも念頭において計画していただきたい。

○委員

会長の話の通り、事業数が増えてきている。いくつか当面の重点目標を決めて、予算を充当してはどうだろうか。まずは全校区の区民が区民まつりに参加できるアイデアを作りながら、今の2~3倍の区民が参加するまつりにしたい。各自治協議会も全面的な協力をしているのだから、よその区に負けないまつりにして、区のPRをしなければ東区というものが浮かび上がってこない。

また、公園ではボールが使えない、学校はクラブ活動で使えないという状況では、子ども達はどこで何をしたらよいか疑問に思う。そういったことも課題として取り上げていただきたい。予算内で重点目標を作り、受益者負担が必要なものについては、受益者負担をお願いするといったかたちで東区の事業を拡大していくとよいのではないか。民間企業等との連携も必要であり、官民一体となって盛り上げていかなければならないと思う。

○委員

5区毎に抱えている問題や人口も違う中で、本庁決定で行われている政令市であり区で対応出来ないところがある。難しい部分であると思うが、精査していただいた中で、ある程度、区の特徴に合わせた特例措置といったものが様々な分野で出てきてほしい。東区においては、こういった面において実現できたという事例があれば、他の4区のモチベーションも上がるのではないか。まちづくりに関する委員、モニターなどにおいても区民の意見が反映され自己実現できれば、話し合った意見を予算化して事業につなげるといった意欲も出てくると思う。ここ数年の内に実現出来れば、もっと区民の皆様も参加型へ向かうのではないだろうか。丁度いい転機だと思うので、そういった方向性についても進めていただきたい。

○会長

ありがとうございました。いずれも貴重な意見であったと思う。本日の議事についてはこれで終了する。